

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	9月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び(正規比率の上昇を含め)や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ(設備投資計画の動向も含む) ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向(一時的要因を除いた実勢と期待物価) ⑤ マーケット(株価、為替、金利等)の動向	地域(茨城県)経済は、生産用機械製造業の増産や求人数増加といった良い動きが続く「持ち直し」基調を持続している。但し、水準が高い生産動向にしても地域企業への波及は限定的であるほか、消費に「もたつき」がみられるなど足もと弱い動きが目立ってきている。原材料や燃料費高騰によって、地域企業の収益環境は厳しさが窺え、所得環境の改善は鈍い。実質「現金給与総額」がマイナス推移にあり、乗用車販売や耐久消費財の戻りも鈍い。消費の現場からは、「顧客の慎重姿勢」、「日用品や食料品販売でも節約志向が強い」といった声が多く聞かれ、消費マインドの低下が懸念材料となっており、消費を刺激する政策支援が必要ではないか。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身(自社)の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	課題の一つに産業基盤の変化への対応があげられる。これまで地域への波及が大きかった大手企業では、拠点統合や再編により地域企業との関係性が薄れつつあり、業種、企業規模間の格差拡大と相まって、経済の好循環を生み出しづらい要因ともなっている。また、一次産業従事者の高齢化が進み、耕作放棄地の増加、一次産業の衰退が懸念されると同時に、これらは人口減少の遠因ともなっている。この打開には、各地域の産業連関を強く意識した焦点を絞り込んだ産業政策の展開が必要である。加えて、地域の潜在力を活かす構想力、連携力の強化にもとづく新産業を生み出す政策、農業分野をはじめとする規制緩和の大胆かつ確実な実行が必要と考える。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	円安は輸出型の大手企業には追い風となっており、地域でも、好調な外需を背景とした自動車部品製造企業などで、設備投資や人員増がみられている。しかし、多くの地域企業には負の側面が大きく、当地域の調査機関が、円安が現在の水準に進行した9月下旬に実施した調査では、マイナス面を指摘する回答が多くみられた。小売店では、「輸入品比率が高まっており、円安で仕入価格が上昇している」との声、また、業種を問わず「原材料、燃料費高騰が収益に打撃」や「消費マインドが低下する」という声も多い。特に、「コスト上昇分を販売価格に転嫁出来ない」との回答が8割もあり、景気への悪影響が懸念される。